

令和7年度 墨田区立押上小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 島田 和久

学校教育目標	○知・徳・体のバランスのとれた人材育成
目指す学校像	○地域や保護者から信頼される学校
目指す児童像	○挑戦する子 ○つながる子 ○働く子
目指す教師像	○自分で考え、自分で判断し、指導できる教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容

◎(1)確かな学力の定着 **・学ぶ意欲を引き出す授業の実践** **・読書に親しむ** **・個に応じた指導**
・基礎基本の学習内容の定着 **・英語および英語活動の推進**

(2)豊かな人間性の育成 **・あいさつの習慣化** **・ルールやマナーを守る** **・人権、道徳教育の充実** **・いじめゼロ**

(3)体力の向上 **・基本的な生活習慣を身に付ける** **・運動の質の向上** **・休み時間の外遊びの増加**

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
	○確かな学力を育てるため、分かりやすい授業を実施する。 ①週案の作成及び提出 ②学力向上プランの作成 ③ ICT機器の活用 ④適切な指導計画を作成し課題解決を行う	①「週の指導計画」に本時のねらいを記入して提出する。 ②全職員が学力向上プランを作成し、分かりやすい授業を行う。 ③全学級でICT機器を活用し、興味・関心を高める導入を行う。 ④学習指導上の課題に対して、適切な指導計画を作成し課題解決を行う。	4	①毎週月曜日に提出する。	4	①週案の提出 4 100%以上 3 95% 2 80% 1 60%未満	4	①週の指導計画に本時のねらいを記入して提出する。 ②全職員が学力向上プランを作成し、分かりやすい授業を行う。 ③学級でICT機器を活用し、興味・関心を高める導入を行う。 ④必要に応じた指導案や指導計画を作成する。	①毎週月曜日に提出する。 ②授業観察で、全学級学力向上プランに基づいた授業を行う。 ③通常授業で、ICT機器を活用した授業を行う。すみだタブレットの日は全学級で活用する。 ④指導案や指導計画を適切に作成した。	A	A	・全国学力状況調査や墨田区学力状況調査において学区力が向上しているのは、教職員の努力の成果である。 ・一人一台タブレットが配布され、授業の他に自ら興味をもったことを調べることができ、学習への意欲、思考力が高まってきている。
			3	②10月の授業観察で、全学級学力向上プランに基づいた授業を行う。	4	②学力向上プランに基づいた授業 4 85%以上 3 80% 2 75% 1 60%未満	3			A	B	
			2	③通常授業で、ICT機器を活用した授業を行う。すみだタブレットの日は全学級で活用する。	4	③ICT機器を活用した授業 4 100%以上 3 95% 2 80% 1 75%未満	4			A	A	
			1	④学習指導上の課題に対して、適切な指導計画を作成し課題解決を行う。	4	④指導案や指導計画の作成 4 100%以上 3 95% 2 80% 1 75%未満	4			A	A	
各教科指導等	○特別な支援を必要とする子供に対する組織的な支援等を行う。 ①特別な支援が必要な児童について検討する。 ②個別指導計画を作成する。 ③補充学習を実施する。 ④個に応じた授業を展開する。	①校内委員会で、特別な支援を要する児童の支援について検討する。 ②特別な支援を必要とする児童の「個別指導計画」を作成する。 ③算数の補充学習として、週2回、「朝のステップ学習や放課後補習」を行う。 ④個に応じた指導支援を行う。	4	①毎月1回、特別支援CNを中心に校内委員会を行う。状況に応じて随時ケース会議を行う。	4	①特別支援CNを中心に校内委員会 4 100%以上 3 85% 2 60% 1 60%未満	4	①校内委員会で、特別な支援を要する児童の支援について検討する。 ②特別な支援を必要とする児童の「個別指導計画」を作成する。 ③算数の補充学習として、週2回、「朝のステップ学習や放課後補習」を行う。	①毎月1回、特別支援CNを中心に校内委員会を行う。状況に応じて随時ケース会議を行う。 ②特別な支援を必要とする全児童の「連携型個別指導計画」を作成する。 ③週4日、補充学習を行う。 算数のDE層：35%以下にする。	A	A	・子供たちの実態に応じた指導をしている。 ・体育発表会や学習発表会など工夫しながら新しい形の行事を行っている。 ・参観された保護者や地域の方から高評価を得ることができた。
			3	②特別な支援を必要とする全児童の「連携型個別指導計画」を作成する。	4	②「連携型個別指導計画」を作成 4 100%以上 3 85% 2 75% 1 75%未満	4			B	A	
			2	週4日、補充学習を行う。 (算数のDE層：35%以下にする。)	4	③算数の補充学習 4 85%以上 3 80% 2 75% 1 75%未満	3			B	A	
			1	④個に応じた指導支援を実施する。	4	④個に応じた指導支援の実施 4 85%以上 3 80% 2 75% 1 75%未満	3			B	A	
	○社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等を行う。 ①幼保小中一環教育を進める。(教員) ②幼保小中一貫教育による交流を進める。(子供) ③模範授業を基にした校内伝達講習会を行う。 ④実態に応じた幼保小中交流研修会を進める。	①教員間による文花中、近隣小学校・幼稚園・保育園との交流を行い、幼保小中一貫教育を推進する。 ②幼児、児童、生徒による交流を行う。 ③模範授業を基にした校内伝達講習会を行う。 ④実態に応じた幼保小中交流研修会を進める。	4	①講演会・研究授業を計画的に全学年行う。	4	①連携による研究授業の実施。教員間の交流 4 80%以上 3 85% 2 75% 1 75%未満	4	①教員間による文花中、近隣小学校・幼稚園・保育園との交流を行い、保小中一貫教育を推進する。 ②生徒、児童、幼児による交流を行う。 ③模範授業を基にした校内伝達講習会を行う。 ④実態に応じた幼保小中交流研修会を進める。	①交流内容を精選し、文花中、近隣小学校・幼稚園・保育園との連携を図り、保小中一貫教育を推進する。 ②生徒、児童、幼児による交流を学校間で行う。 ③連携による研究授業の実践、教員間の交流の充実を図る。 ④中学校、幼稚園・保育園との交流活動を行う。	A	A	・学校だけに任せるのではなく、家庭や地域の協力も必要である。 ・学校は、保護者や地域と連携して教育活動の充実を努めている。 ・地域行事やPTA行事等は、工夫した活動を行えた。 ・アンケートで「わからない」という回答に対して、肯定的評価に変えて行く努力が今後も必要である。
			3	②月1回以上の授業観察を行う。	4	②月1回以上の授業観察を行う。 4 80%以上 3 85% 2 75% 1 75%未満	4			A	A	
			2	③3回以上、模範授業を基にした校内伝達講習会を行う。(校内OJTを進める。)	4	③校内OJT・伝達講習会を行う。 4 80%以上 3 85% 2 75% 1 75%未満	4			B	B	
			1	④幼保小中交流研修会を進める。	4	④幼保小中の交流研修会を進める。 4 80%以上 3 85% 2 75% 1 75%未満	4			B	B	
	○教員の指導力・授業力を高めるための組織的な取組等を行う。 ①情報活用能力に重点を置き「指導力向上、授業力向上」に努める。 ②初任者、2年次、3年次の育成を計画的に進める。 ③研究授業を活用し、校内研究(全体)の充実を図る。 ④研究授業を活用し、校内研究(学年)の充実を図る。 墨田区研究協力校 研究発表会の実施	①校内研究「全教科」を通して、情報活用能力に重点を置き「指導力向上、授業力向上」に努める。 ②初任者、2年次、3年次の育成を計画的に進める。 ③研究授業を活用し、校内研究(全体)の充実を図る。 ④研究授業を活用し、校内研究(学年)の充実を図る。 墨田区研究協力校 研究発表会の実施	4	①講演会・研究授業を年6回行う。	4	①講演会・研究授業 4 100%以上 3 85% 2 75% 1 75%未満	4	①校内研究「全教科」(ICT機器の活用)を通して、情報活用能力に重点を置き「指導力向上、授業力向上」に努める。 ②初任者、2年次、3年次の育成を計画的に進める。 ③研究授業を活用し、校内研究の充実を図る。 ④研究発表会を通して、校内研究の充実を図る。	①情報活用能力に重点を置き「指導力向上、授業力向上」に努める。 ②月1回以上の授業観察を行う。 ③1回以上、模範授業を基にした校内伝達講習会を行う。(校内OJTを進める。) ④区研究発表会・研究授業を行う。	A	A	・一人一台タブレットが配布され、授業の他に自ら興味をもったことを調べることができ、学習への意欲、思考力が高まってきている。 ・児童の授業の充実をこれからもお願いしたい。
			3	②5月1回以上の授業観察を行う。	4	②授業観察 4 100%以上 3 85% 2 75% 1 75%未満	4			A	A	
			2	③3回以上、模範授業を基にした校内伝達講習会を行う。(校内OJTを進める。)	4	③校内OJTの実施 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			B	B	
			1	学年での共通な取り組みを行う。(学年OJTでの研修会の充実)	4	④学年OJTの実施 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			A	A	

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
生活指導等	○体力向上を図るための、体育授業、体育的行事等の取組を行う。 ①全学級での取組を实践する。 ②各学級での取組を实践する。 ③休み時間を使っての体力向上に取組ませる。 ④放課後使つての体力向上に取組ませる。	①全学級で1校1取組を行う。 ②各学級で1学級1取組を行う。(短縄、長縄、持久走等) ③休み時間に外遊びを励行する。 ④放課後使つての体力向上に取組ませる。	4	4	①押上かけとび運動 4 100%以上 3 85% 2 75% 1 75%未満	4	①全学級、体育授業で「押上かけとび運動」を行う。 ②体力づくり週間等を設定し、全校で計画的に取り組む。 ③休み時間に外遊びを励行する。 ④放課後使つての体力向上に取組ませる。	①全学級、体育授業で「押上かけとび運動」を充実させた。 ②体力づくり週間等を設定し、全校で計画的に取り組めた。 ③休み時間の外遊びを励行させた。 ④校庭使用状況を確認する。	A	A	・体育発表会の創意工夫を今後もお願いしたい。 ・子供の体力向上に引き続き力をいれたい。 ・休み時間、事故が無いようにしてもらいたい。
			3	3	②体力作りの取組 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			B	A	
			2	2	③休み時間の取組 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			B	B	
			1	1	放課後使つての遊びを通しての体力向上。 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	3			A	B	
	○問題行動の予防や解決。組織的な取組等を実施する。 ①生活指導夕会を活用し児童理解に努める。 ②いじめを未然に防止する。 ③不登校児童を減らす。 ④地域、家庭都の連携を大切にす。	①生活指導夕会等を活用して、児童理解に努める。 ②「押上小いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを未然に防止する。 ③不登校及び不登校傾向の児童や家庭への支援を行う。 ④地域、家庭都の連携を大切にす。	4	4	①問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組 4 80%以上 3 75% 2 60% 1 60%未満	4	①生活指導夕会等を活用して、児童理解に努める。 ②「押上小いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを未然に防止する。 ③不登校及び不登校傾向の児童や家庭への支援を行う。 ④地域、家庭都の連携を大切にす。	①毎週水曜日、生活指導夕会を行い、具体的な対応策を共有する。(問題行動対応) ②いじめ防止授業公開講座を行い、全学級いじめ防止授業を公開する。 ③登校時の発生件数を確認する。 ④地域、家庭都の連携を大切にす。	A	A	・登校班については、様々と見え方があるが、子供の安全な登下校を考え、これからも継続していくべきである。 ・登下校時、元気よくあいさつできる子が増えてきているように感じている。引き続き指導をお願いしたい。 ・いじめを絶対に許さない指導体制をこれからも進めていきます。
			3	3	②いじめを未然に防止 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			B	B	
			2	2	③不登校児童を減らす 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			B	B	
			1	1	④地域、家庭都の連携を図る。 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			A	A	

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
	○基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等を行う。 ①あいさつの習慣をつける。 ②道徳授業を年35時間行う。 ③いじめゼロをめざす。 ④不登校ゼロをめざす。	①自らのあいさつを習慣化出来るように取り組む。 ②年35時間、道徳授業を計実施する。 ③いじめゼロをめざし指導支援を行う。 ④不登校ゼロをめざし児童への指導支援、保護者との連携を行う。	4	①登校時のあいさつの様子を確認する。	4	①自らのあいさつを習慣化する。 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4	①自らのあいさつを習慣化する。 ②年35時間、道徳授業を行う。 ③いじめ防止の取り組み、調査を行いいじめゼロをめざす。 ④不登校ゼロをめざし、日々の生活習慣、学校生活、家庭との連携を図る。	①朝、昼、下校時のあいさつの様子を確認する。 ②道徳授業地区公開講座を行い、全学級道徳授業を公開する。 ③調査、発見、対応を迅速に行った。 ④不登校ゼロをめざし、個に応じた指導支援、(生活習慣、学校生活)と家庭との連携を強化した。	A	A	・子供たちにはたくさんの経験をしてもらいたい。失敗を恐れず、その経験を成長にいかして欲しい。 ・あいさつのサポートをするのが、親であり、教師であり、地域の大人であって欲しい。
			3	道徳授業地区公開講座を行い、全学級道徳授業を公開する。年35時間の道徳授業を実施する。	4	②道徳授業地区公開講座を行い、道徳教育の充実を図る。 4 100% 3 85% 2 75% 1 60%未満	4			A	A	
			2	③いじめ防止の取り組み、調査を行いいじめゼロをめざす。	4	③いじめ防止の取り組みからいじめゼロをめざす。 4 100% 3 85% 2 75% 1 60%未満	3			B	B	
			1	④不登校ゼロをめざし、日々の生活習慣、学校生活、家庭との連携を図る。	4	④不登校児童ゼロをめざす取り組みを実践する。 4 100% 3 85% 2 75% 1 60%未満	3			B	B	
学校の管理運営	○安全を確保するための取組等を実施する。 ①安全指導を毎月行う。 ②セーフティ教室を各学年実施する。 ③各学年、学級での安全指導の確認を行う。 ④日々の安全指導の点検確認。	①安全指導を毎月1回行う。 ②セーフティ教室を各学年実施する。 ③各学年、学級での安全指導の確認を行う。 ④日々の安全指導の点検確認を行う。	4	①週1回以上、生活安全・交通安全・災害安全の各項目について指導する。	4	①生活安全・交通安全・災害安全の各項目について指導 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4	①全指導を毎月1回行う。 ②セーフティ教室を各学年実施する。年セーフティ教室を行う。 ③各学年、学級での安全指導の確認を行う。 ④日々の安全指導の点検確認を行う。	①生活安全・交通安全・災害安全の各項目について適切に指導する。 ②セーフティ教室を各学年実施する。 ③各学年、学級での安全指導の徹底を図る。 ④日々の安全指導の点検確認的確に行い、無事故の徹底を図る。	A	A	・子供たちの安全のため、登校班はこれからも継続していくべきである。 ・登下校時、元気よくあいさつできる子が増えてきているように感じている。引き続き指導をお願いしたい。 ・学校だけに任せるのではなく、家庭や地域の協力も必要である。
			3	②各学年セーフティ教室を行う。	4	②各学年セーフティ教室 4 100% 3 85% 2 75% 1 60%未満	4			A	A	
			2	③各学年、学級での安全指導の確認を行う。	4	②安全指導の確認、安全確認の点検 4 100% 3 85% 2 75% 1 60%未満	4			A	A	
			1	④日々の安全指導の点検確認を行う。	4	②安全指導の点検確認 4 100% 3 85% 2 75% 1 60%未満	4			A	A	
	○経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営を実施する。 ①学校経営方針に基づいた自己申告書を作成・提出する。 ②校務組織を改善し、校内体制を整える。 ③校務分掌の各責任者が一工夫一改善ある提案を行う。 ④校務分掌の伝達、引き継ぎなど効率よく伝達する。	①学校経営方針に基づいた自己申告書を作成させ、面接を年3回行う。 ②校務組織を改善し、校内体制を整える。 ③校務分掌の各責任者が一工夫一改善ある提案を行う。 ④校務分掌の伝達、引き継ぎなど効率よく伝達する。	4	①全教職員、学校経営方針を基に自己申告書を作成し、年3回面接を行う。	4	①学校経営方針を基に自己申告書 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4	①学校経営方針に基づいた自己申告書を作成させ、面接を年3回実施。 ②校務組織を改善し、校内体制を充実させる。 ③校務分掌の各責任者が一工夫一改善を取り入れる。 ④校務分掌の伝達、引き継ぎなど効率よく伝達する。	①学校経営方針に基づいた自己申告書を作成させ、面接を年3回行う。 ②校務組織を改善し、校内体制を整える。 ③校務分掌の各責任者が一工夫一改善ある提案を行う。 ④校務分掌の伝達、引き継ぎなど効率よく伝達する。	A	A	・押上小学校に通っている我が子を見ると、先生をはじめ地域の方々にも温かく見守っていただけています。安心感があります。 ・いつも子供たちを伸びやかに育てていただき、ありがとうございます。 ・先生の指導のおかげで、子供が自信を持つことができ、新しいことに挑戦できるようになりました。感謝しています。
			3	②校務の進行管理を確実にし、「報告・連絡・相談・確認」を徹底する。	4	②校務の進行管理 4 80%以上 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			A	A	
			2	③校務分掌の各責任者が一工夫一改善の実践を行わせる。	4	校務分掌の各責任者が一工夫一改善 4 80% 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			A	A	
			1	④校務分掌の伝達、引き継ぎなど効率よく伝達する。	4	校務分掌の効率の良い引き継ぎ事項 4 80% 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			A	A	
	子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等を行う。 ①学校関係者評価等を受け、改善策を作成し改善に努める。 ②行事ごとの評価を通し改善策を講じより良い教育活動を展開していく。 ③行事ごとの評価と学校関係者評価を検証し改善を進める。 ④学校評価、学校関係者評価を検証し次年度の教育計画に生かす。各行事ごとに評価を行うと共に、学校関係者評価を(2月)に行う。	①学校関係者評価等を受け、改善策を作成し改善に努める。 ②行事ごとの評価を通し改善策を講じより良い教育活動を展開していく。 ③行事ごとの評価と学校関係者評価を検証し改善を進める。 ④学校評価、学校関係者評価を検証し次年度の教育計画に生かす。各行事ごとに評価を行うと共に、学校関係者評価を(2月)に行う。	4	学校関係者評価等を受け、改善策を作成し改善に努める。	4	学校関係者評価を受けて改善を図る。 4 80% 3 70% 2 60% 1 60%未満	4	①全国学力状況調査や墨田区学力状況調査において学区力が向上しているのは、教職員の努力の成果である。 ②表現運動発表会や学習発表会など工夫しながら新しい形の行事を行うことができた。 ③一人一台タブレットが配布され、授業の他に自ら興味をもったことを調べることができ、学習への意欲、思考力が高まってきている。 学校評価、学校関係者評価を検証し次年度の教育計画に生かす。	①全国学力状況調査や墨田区学力状況調査において学区力が向上に向け尽力為していく。 ②表現運動発表会や学習発表会など工夫しながら新しい形の行事をこれからも実施していく。 ③一人一台タブレットを活用し、今後も授業を通して学習への関心、意欲、態度、思考力を高めていく。 ④学校評価、学校関係者評価を検証し次年度の教育計画に生かしていく。	A	A	・アンケート自由意見がたくさん出てくるのは関心の表れ、このことを大切にしたい。 ・働き方改革の観点からは、データでの集計を続けるのはよい。 ・学校だより・ホームページ等の更なる活用をお願いする。
			3	行事ごとの評価を通し改善策を講じより良い教育活動を展開していく。	4	行事ごとの評価から学校改善を図る。 4 80% 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			A	A	
			2	行事ごとの評価と学校関係者評価を検証し改善を進める。	4	行事の評価と学校関係者評価を検証し改善を図る。 4 80% 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			B	B	
			1	学校評価、学校関係者評価を検証し次年度の教育計画に生かす。	4	次年度教育計画に生かす。 4 80% 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			A	A	
○教育環境・設備等の整備状況等を確認する。 ①校内安全点検を行う。 ②学校予算を提示し、計画的に活用する。 ③教材教具の整備と学習活動の効果を上げる。 ④会計事故の未然防止の為、公費、私費の取り扱いを厳格に扱う。	校外内の安全点検を通して、教育環境・設備の充実に努める。 ①毎月1回の安全点検を受け、迅速に対応する。 ②学校配当予算を計画的に活用する。 ③教材教具の整備と学習活動の効果を上げる。 ④会計事故の未然防止の為、公費、私費の取り扱いを厳格に扱う。	①毎月1回の安全点検を受け、迅速に対応する。	4	①校内安全点検を行う。	4	①校内安全点検を行う。 4 80% 3 70% 2 60% 1 60%未満	4	①毎月1回の安全点検を受け、迅速に対応する。 ②学校配当予算を計画的に活用する。 ③教材教具の整備と学習活動の効果を上げる。 ④会計事故の未然防止の為、公費、私費の取り扱いを厳格	①点検表を活用し、毎月1回の安全点検を受け、迅速に対応する。 ②学校配当予算を計画的に活用、運用する。 ③教材教具の整備と学習活動を計画的に進め、学習効果を上げる。	A	A	・校内、校外の安全指導を今後もお願いしたい。
			3	申請・決済・執行の手続きを確実に。会計事故を起こさない。	4	②学校予算を計画的に運用する。 4 80% 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			A	A	
			2	③教材教具の整備と学習活動の効果を上げる。	4	③教材教具の整備と学習活動の効果を上げる。 4 80% 3 70% 2 60% 1 60%未満	4			A	A	

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
家庭・地域連携			1	④会計事故の未然防止の為、公費、私費の取り扱いを厳格に扱う。	4	1 4 80% 2 60%	4	に扱う。	④会計事故の未然防止の為、公費、私費の取り扱いを厳格に扱う。	A	A		
	○組織的な人材育成を行う。 ①校内OJTとして、教職員の指導力向上を目指した研修会を行う。 ②服務事故の未然防止のための研修を計画的に進める。 ③若手教員の人材育成・メンターの充実を図る。 ④ライフワークバランスを考慮した会議の精選、業務の効率化を進める。	①校内OJTとして、教職員の指導力向上を目指した研修会を計画的に行う。 ②服務事故の未然防止のための研修を計画的に進める。 ③若手教員の充実を図り、若手育成に努める。 ④ライフワークバランスを考慮した会議の精選、業務の効率化を進める。	4	①田幹教諭をOJT担当者とした授業観察や校内研修会を計画的に行う。	4	4 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	4	①校内OJTとして、教職員の指導力向上を目指した研修会を計画的に行う。 ②服務事故の未然防止のための研修を計画的に進める。 ③若手教員の充実を図り、若手育成に努める。 ④ライフワークバランスを考慮した会議の精選、業務の効率化を進める。	①主幹教諭をOJT担当者とした授業観察や校内研修会を計画的に進める。 ②都や区の服務事故防止研修を毎月実施する。(都2回、区12回) ③若手教員の充実を図り、更なる若手育成を行う。 ④ライフワークバランスを考慮した仕事内容の効率化を進める。	A	A	・働き方改革を受けて、仕事内容を改善し、効果的な計画運営をお願いしたい。
			3	都や区の服務事故防止研修を毎月実施する。(都2回、区12回)	4	3 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	4		A	A		
			2	若手教員の充実を図る。	4	2 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	4		B	B		
			1	ライフワークバランスを考慮した会議の精選、業務の効率化	4	1 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	4		B	B		
○教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等を実施する。 ①PTA役員会、学校運営連絡協議会、民生児童委員等との連絡会 ②学校だより・学年だよりの配布。 ③ホームページ等の活用。 ④コクーを連絡確認、シャボテンログを使つての児童の情報収集	①学校経営方針や日常の教育活動を報告する。 ②学校だより・学年だよりの配布。 ③ホームページ等の活用を図り情報発信を行う。 ④コクーを連絡確認、シャボテンログを使つての児童の情報収集を行い安心安全な学校づくりを行う。	4	①PTA役員会、学校運営連絡協議会、民生児童委員等との連絡会で、学校経営方針・日常の教育活動を報告する	4	4 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	4	①学校経営方針や日常の教育活動を報告する。 ②学校だより・学年だよりの配布を充実させる。 ③ホームページ等の活用を図り情報発信を定期的に(月1回)行う。 ④コクーを連絡確認、シャボテンログを使つての児童の情報収集を行う。	①学校経営方針や日常の教育活動を報告することができた。 ②学校だより・学年だよりの配布をコクーを活用し徹底できた。 ③ホームページ等の活用を図り情報発信の充実を図る。 ④コクーを連絡確認、シャボテンログを使つての児童の情報収集を行い安心安全な学校づくりを行う。	A	A	・PTA役員会、学校運営連絡協議会、民生児童委員等との連絡会で、学校の教育活動を具体的に報告して欲しい。	
		3	②学校だより・学年だよりのを通しての情報提供。	4	3 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	4		A	A	・ホームページの学校だより・学年だよりを活用し、日常の教育活動を積極的に公開して欲しい。		
		2	③ホームページ等を使つての情報提供。	4	2 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	4		B	B			
		1	④コクーを連絡確認、シャボテンログを使つての児童の情報収集	4	1 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	4		A	A			
○保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進。 ①地域見守り隊による登下校の見守りの活動の協力連携を図る。 ②地域人材による放課後子供クラブの運営に協力する。 ③地域人材を活用し、ゲストティーチャーやボランティアによる体験的学習を行う。	①地域見守り隊による登下校の見守り活動に協力する。 ②地域人材による放課後子供クラブの運営に協力する。 ③地域人材を活用し、ゲストティーチャーやボランティアによる体験的学習を行う。 ④読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行う。	4	①登下校の見守り活動に協力する。	4	4 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	3	①学校経営方針や日常の教育活動を報告する。	①地域見守り隊による登下校の見守り活動に協力する。 ②地域人材による放課後子供クラブの運営に協力する。 ③地域人材を活用し、ゲストティーチャーやボランティアによる体験的学習を行う。 ④読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行う。	A	B	・学校は、保護者や地域と連携して教育活動の充実を努めている。	
		3	②放課後子供クラブの運営に協力する	4	3 4 80% 3 70%	3 3 70% 1 60%未満	4	②PTA役員会、学校運営連絡協議会、民生児童委員等との連絡会で、学校経営方針・日常の教育活動を報告する。 ③学校だより・学年だよりをCOC00やホームページ等により、日常の教育活動を積極的に公開する。	②地域人材による放課後子供クラブの運営に協力する。 ③地域人材を活用し、ゲストティーチャーやボランティアによる体験的学習を行う。 ④読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行う。	A	A	・地域行事やPTA行事では、いろいろな活動で工夫した活動を行えた。	
		2	③地域人材等を用いた体験的学習を行う。	4	2 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	3		A	B			
		1	④ゲストティーチャーやボランティアによる体験的学習を行う。	4	1 4 80% 2 60%	3 3 70% 1 60%未満	3		A	B	・アンケートで「わからない」という回答には、誠実に答え、肯定的評価を増やしていく。		

○令和7年度 学校経営報告のまとめ(総括)

- ・本校の教育目標「挑戦する子」「つながる子」「働く子」の実現に向けて取り組みや、地域やPTAに対して学校経営方針をわかりやすく伝え、理解していただき、多くの方々にご理解、ご協力をしていただいた。学校評価では、「教育方針や教育活動の様子説明」の項目で85%以上の肯定的評価を受けた。今後も継続して分かりやすい教育活動を展開していく。
- ・児童の学習習慣の定着を図るための「振り返りシート」の活用、放課後の補習学習、家庭学習の定着に力を入れてきた。その結果、日々の取組の成果が区学力調査の好結果に繋がった。全学年、全国水準、またはそれを5~10ポイント以上、上回る高い数値が見られた。各学年、学力の安定した定着が見られてきている。今後も、学力向上推進委員会を中心に学力向上へ取り組みを進め、児童一人一人に学びの喜びを実感させていく。
- ・学年主任を中心に授業力向上に取り組んだ。学校評価では、「学ぶ意欲を引き出す授業作り」の項目で80%以上の肯定的評価を受けた。教員の授業力向上を児童の学力向上につなげていく。
- ・生活指導面では、学校評価で「あいさつ」の項目では、肯定的評価で受けることができた。しかし、「改善の余地あり」「わからない」がふえてきている。引き続き教職員と児童があいさつ運動に前向きに取り組んでいきたいと考える。地域、保護者の皆様の協力も肯定的評価に繋げていきたい。今後も学校と地域、保護者の連携を大切に児童の育成に取り組んでいく。